



3月になりました。 校長 石川 拓

児童・生徒の皆さん全員の個別指導計画の作成が終わりました。1年前の4月に立てた目標は達成できましたか。

2月の最後の週に「卒業・進級認定会議」を行いました。学習を積み上げて、分かるようになったり、できるようになったりしたことを確認しました。学校に通うことが難しかった児童・生徒もいました。

一人一人が努力してきたことと、御家庭での御苦労や教員との毎日の積み重ねの重みを実感しました。

小6・中3の皆さんの登校日数は残り15日間です。その他の学年の皆さんは残り16日間です。

**3月が終わるまでしっかり勉強してください。**

卒業式では卒業証書を、修了式では修了証を授与します。

一人一人の努力と成長を、共に喜び合いたいです。



**I 3月12日(水)全校保護者会・学年保護者会に御参加ください**

今年度最後の保護者会です。午前中の全校保護者会では一年間の取組みの評価と課題、令和7年度学校経営計画の概要を説明いたします。詳細資料については、3月10日のさくら連絡網を通じてお知らせします。

当日来校されない保護者様もおられますので、校長がお伝えする内容のあらましをお伝えします。

**※全校保護者会の内容は、リアルオンライン配信と、後日YouTube限定配信をいたします。**

**II 令和7年度学校経営方針(概要)**

学校評価分析と学校運営連絡協議会を経て、令和7年度の学校経営方針を作成しました。回答をいただいた学校評価アンケート結果と自由記述の意見等も反映しています。感謝申し上げます。

5年間程度未来を見据えた中期目標は2つです。

**1:「教育課程改善」によって生み出した時間を活用して学習指導・生活指導・進路指導の専門性向上策を講じて成果を上げる。(経過を適宜報告します)**

**2:「共生社会実現」に貢献する教育実践の開発・普及(情報発信)を持続・継続できる組織を構築する。**

次に学校経営の重点5項目について説明します。

**1 「人権尊重」**

(1) **【継続】人権意識の個人差を埋める取組**

最も大切なことは注意し合える「同僚性」を高めることです。

今年度策定した「教職員行動指針」を形骸化させず、折々に活用していきます。

(2) **【継続】保護者様との協働を進めます!**

ア 子供たちの呼称に「さん」を使います。

イ 年齢相応の指導・対応に転換します。

イラスト、教材、学習内容、言葉掛けなど、年齢に応じた対応であるかを検証・改善します。

(3) **【継続】トイレの環境整備・着替え時の対応・サニタリーグッズの扱いに配慮**

ア 一部男女共用トイレの改修を東京都に継続要望

イ 教室等での着替えの際にカーテンやロールスクリーン等で目隠しすることを徹底

ウ おむつ・尿パッド・生理用品が人目に付かない取扱いを徹底

(4) **【新規】外部講師を招いた人権研修の実施**

研修内容について保護者様との共有方法を検討します。



**2 「安全・安心」**

(1) **【継続】児童・生徒への対応力向上**

一人一人の困難さに対応するための知識等を、**全学校関係者が共有することを**目指します

※例:強度行動障害への対応を学べる都のサイト URL の共有、外部専門員通信の発行、スクールバスや放課後等デイサービス連絡会等での情報共有 等

(2) **【新規】老朽・狭小校舎の保守・機能維持**

大規模改築時期が遅れることを受けて、**現有の施設・設備の機能維持管理に切替えます。**

(3) **【継続】健康保持・増進・医療的ケア**

ア 各種事故防止シミュレーション訓練実施

イ インシデント等発生後の分析結果・防止策の周知徹底

ウ 医ケア運営:教員と非常勤看護師の協働促進

エ 感染症拡大防止や熱中症防止対策徹底

オ 給食で使用する再調理器具整備と摂食指導の専門性向上

(4) **防災・防犯**

ア **【継続】**実効性の高い各種訓練の実施

イ **【新規】**保護者様・地域住民等参加による「総合防災訓練」実施



### 3 「専門性向上」

#### (1) 【継続】教育課程の更なる改善 研究開発テーマを刷新。

- ア 小学部：学級で指導する「生活単元学習」の年間指導計画・指導方法開発・整備
- イ 中学部：「作業学習」をサービスワーク系の作業種に変更したことを受けて、授業実践しながら指導計画を修正・整備

※ア・イはキャリア教育の視点で、児童・生徒の自立を促すつながりのある学習計画を開発

- ウ **【新規】読書活動の充実：都指定校 (R7)**  
読書活動から言語・コミュニケーション学習充実

#### (2) 「対応力・指導力」向上（分析力は前提）

- ア **【継続】** 児童・生徒の主体性を引き出す指導内容・指導方法開発（外部専門員の活用促進）
- イ **【新規】ICT・デジタル・支援機器利活用**  
特定のアプリケーションを活用した認知・コミュニケーション学習開発
- ウ **【新規】自閉症学級担当者支援**  
東京都教職員研修センター：講師招聘研修



### 4 「共生社会実現・情報発信」

地域の理解充実を進めます！

- ア **【継続】** 学校の情報発信力・説明力向上  
ホームページ、X、各種お便りなど、情報発信を行う媒体（メディア）の役割を見直し、継続発信
- イ **【継続】** 学校間交流
  - ① 交流への小学校・中学校保護者参観の促進
  - ② **【新規】** 学校規模の変化等に応じた交流活動の改善を学校間で検討整備（2年計画）
- ウ **【継続】** 副籍交流  
課題の抽出・対応の整理を行う。都や区と共同した改善促進。
- エ **【新規】** 高島高校との協働活動開発  
**都指定校 (R7~R9)**：R10 に研究成果全都普及



### 5 「校務改善・学校魅力化」

#### (1) 【継続】働き方改革推進

- ア 全教職員の超過勤務時間の縮減目標設定

- ・ **【新規】** 業務の一部外部委託試行
- ・ ワークシェアの推進

- イ 教育課程一部削減による専門性向上策

**【新規】** 「児童・生徒指導」「授業準備」に係る準備時間確保と専門性向上推進  
※経過を継続して報告

#### (2) 【継続】学校魅力化

- ・ (再掲) 本校の強みや特別支援教育の理解充実を意図した情報発信
- ・ 専門性の地域への還元
- ・ 未来の教員人材確保  
大学連携による学生指導  
(東洋大学・埼玉学園大学

+ **【新規】** 大東文化大学)



### III 来年度に向けた準備が始まっています

来年度の学級数がほぼ確定して学校規模が定まりました。児童・生徒の在籍数、学級数は、共に今年度よりも増える予定です。



2月26日(水)の午後に生活指導部の通学指導担当者が行ったスクールバスの乗車位置シミュレーションの様子です(左写真)。

午前中には「放課後等デイサービス事業所連絡会」を開催しました。4月からの児童・生徒引き渡しの方法や、2月3日(月)から実施している、校庭に車両を入れて、一斉に下校する「一斉デイ」(下写真)について、安全・確実な児童・生徒の引き渡しと車両の入出庫ができるよう、協力を依頼しました。



校庭門の閉門や車両誘導など、いくつもの放課後等デイサービスが協力すると手を挙げてくだ

さいました。学校が安全安心な場所となるように、工夫を重ねてまいります。

## ■ 第2回防災教育推進委員会を開催しました

生活指導部主任 主幹教諭 佐藤 しほ

2月12日（水）に第2回防災教育推進委員会を開催しました。板橋区危機管理室地域防災支援係長、志村消防署高島平出張所所長、高島平警察署生活安全課少年係長、高島平三丁目自治会長の皆様が来校され、避難訓練（火災）の見学と、今年度の本校の防災教育の取り組みについての御意見をいただきました。

前回の第1回防災教育推進委員会（6月6日実施）での避難訓練の様子と比べ、児童・生徒が放送や教員の指示をよく聞いて、静かに、落ち着いて、そしてすばやく校庭に避難している姿を見て、委員の方々から「大きな成長を感じる」とお褒めの言葉をいただきました。また、ヘルメットを着用した状態で、静かに副校長先生の話聞く姿にも大変驚かされていました。防災教育は、避難訓練時のみに限らず、学級の時間にも学習を積み重ねています。特に小学部1年生は、入学したばかりの頃はヘルメットの着用に困難さを見せることが多いのですが、1年間丁寧に指導することで、今では立派にヘルメットを被り続けることができます。「こうした避難行動を身に付けることは自分の命を守るために一生役に立つので、ぜひ今後も継続してほしい」と消防署長からお言葉をいただきました。

今年度の取り組みとして、本校は避難訓練を形骸化せず、様々な状況を想定し、毎月の訓練の内容を工夫して実施してきました。来月3月は今年度のまとめとして、地震が起きている中、更に火災が発生し、赤塚公園まで二次避難するという内容で実施します。児童・生徒が今まで訓練してきた成果を発揮できるよう、具体的な訓練実施案を作成し行う予定です。

いつ起こるか分からない災害等に対して、日頃から十分に対策していくことが大切です。防災教育推進委員会での御意見を反映し、今後も様々な形式で訓練を実施し、児童・生徒が自分の身を守る安全な行動をするために必要な力を高めていきます。



## ■ 本校の学校間交流について

キャリア支援部主任 主幹教諭 三好 紀子

本校は、共生社会の実現に向けて、障害のある児童・生徒と障害のない児童・生徒の学校間での交流を推進しており、板橋区立高島第三小学校・高島第五小学校・高島第三中学校と交流を行っています。

交流を通して、本校と交流校、両方の子供たちの経験を広げ、社会性を養い、豊かな人間性と、互いを思いやる心や多様性を尊重する心を育むことを目指しています。

本校は、どの学年も事前に交流で行うゲーム等の練習を重ね、本番に臨んでいます。

また、交流校の児童・生徒には、事前に本校と本校に通う子供たちのことを知ってもらうため、本校教員が交流校へ赴き、出前授業を実施しています。今年度は、小学部についてはオンラインを活用し、両校の子供たちが画面越しで顔合わせをし、本校からは当日行うゲームなどを紹介することができました。

中学部については、毎年、中学部3年生の保護者様に御協力いただき、高島第三中学校7年生にお子さんのお話をさせていただき「理解啓発講演会」を実施しています。講演後、代表生徒からは「障害について理解や興味が深まりました。高島特別支援学校の皆さんは、人懐っこい性格だったり、音楽やダンスが好きだったり、私達との共通点がいろいろあり、身近に感じました。」との感想がありました。

交流当日は、両校とも硬い面持ちでスタートするものの、自己紹介やゲームが進むにつれて次第に緊張がほぐれ、笑い声が聞こえてくるようになります。そしてゲームの中で、一緒に遊具を運んで次のグループに渡したり、使用した道具を片付けたりなどの協力する姿や、友達のナイスプレーを称賛する掛け声やハイタッチなど、子供同士の自然な関わり合いがたくさん見られました。

そのほか、これら交流の充実のため、板橋区教育委員会をはじめ、交流校の管理職やPTA役員、本校PTAにも参加していただき、年2回、「交流教育連絡会」を実施しています。第2回目は1月22日（水）に開催し、出席者には、本校小学部4年生と高島第三小学校2年生との交流会を見学していただき、その後、交流に関する意見交換を行いました。その中で、参加された方々の共通した意見は、「交流が、今日の1回で終わるのはもったいない」「継

続した交流ができないか」というものでした。本校にとっては、全学年が年1回の交流、交流する相手は毎年違います。交流校にとっては、交流対象学年が限られており、彼らが小学校に入学してから中学校を卒業するまでに本校と交流する回数は、3～4回です。

交流の中身はもちろんですが、本校の児童・生徒数の増加、交流した友達との継続した関わりのもち方、交流校にとっては交流の機会がない学年への対応などの課題について、オンラインの活用など、持続可能なより充実した交流を検討・改善していきます。

【小学部】

<交流会>

1年	令和7年 1月20日(月) ※感染症拡大防止のため中止	高島第五小学校 2年生との交流
2年	令和6年10月28日(月)	
3年	令和6年11月22日(金)	高島第三小学校 2年生との交流
4年	令和7年 1月22日(水)	
5年	令和6年11月28日(木)	高島第三小学校 5年生との交流
6年	令和7年 1月28日(火)	



小学部2年



小学部3年



小学部4年



小学部5年



小学部6年

<出前授業(事前学習)>

高島第五小学校2年生	令和6年10月 4日(金)
高島第三小学校2年生	令和6年10月18日(金)
高島第三小学校5年生	令和6年 9月11日(水)



小学部2年



小学部3・4年



高島第三小学校5年

【中学部】

<交流会>

1年	令和6年12月20日(金) ※感染症拡大防止のため中止	高島第三中学校 7年生との交流
2年		
3年		

<出前授業>

理解啓発講演会 令和6年 6月 5日(水)



<作品展(高島第三中学校)>

作品展 令和7年2月28日(金)・3月1日(土)

【学習発表会】

交流校作品展 令和6年11月15日(金)

～19日(火)



【交流教育連絡会】

第1回	令和6年 5月29日(水)
第2回	令和7年 1月22日(水)

## ■ 高島高等学校との交流について

キャリア支援部主任 主幹教諭 三好 紀子

本校と隣接する都立高島高等学校は、本校と同じ年に開校し、本校と50年を超える交流を続けています。

毎年、高島高校の文化祭には本校児童・生徒の図工・美術作品を展示し、たくさんの高校生が鑑賞しています。

本校の児童・生徒が毎年楽しみにしているのは、高校の部活動発表。今年は、高島高校のダンス部とバトントワール部のパフォーマンスを、中学部生徒が鑑賞しました。高校生の格好良い踊りに、本校生徒たちは歓声を挙げ、拍手したり、動きをまねたりして楽しみました。次に、高校生に振付を教してもらいながら一緒に「パプリカ」を踊り、高校生と笑顔を交わしたり、声を掛け合ったりと、両校の生徒同士で関わりを深めることができました。最後は、本校からお礼として日頃から取り組んでいる中学部ダンス「Wavin' Flag」を披露し、高校生たちからたくさんの拍手をもらい、充実した交流会となりました。

参加した高校生からは、「高島特別支援学校の中学生たちがたくさん手を振ってくれて、積極的に交流してくれて、とてもうれしかったです。中学生が披露してくれたダンスを見て、みんな楽しそうに踊っていて、それがとても上手で、たくさん練習したことが伝わってきました。本当に楽しかったので、ぜひまた交流したいです。」と感想をもらいました。また、司会をした本校生徒会の生徒たちは、「迫力あるダンスだった。ダンス楽しかった。」「キラキラのポンポンが綺麗だった。」「『パプリカ』を高校生と一緒に踊れて感動した。」と後日感想を教えてくださいました。



この交流では、事前に会場を確認に来校した高校生に対して、本校や障害について理解を深めてもらうため、スライドを用いた説明も行いました。高校生からは「自分の高校の隣にある学校なのに、何をやっているか、今回初めて知りました。私は中学生の時、特別支援学校の子たちと交流しましたが、コミュニケーションをとるのが難しかったです。交流の時は、どうすれば伝わるか考えて臨みたいと思います。」と、学んだこととこれから実施する交流への思いを発表してくれました。きっと交流当日は、言葉だけではなく、踊り、視線や表情、手を振る、ハイタッチ等、様々な手段で本校の生徒たちに伝わるということを、高校生は実感したことでしょう。



そのほか、中学部では毎年、赤塚公園の落ち葉拾いをしてしていますが、今年度は、本校生徒会の生徒たちが高校生と一緒にすることができました。



今後も、高島高校と一緒にできることを両校で確認しながら、交流を継続・充実させてまいります。

高島祭 (高島高校文化祭)	令和6年9月13日(金)・14日(土) 図工・美術作品の展示
高島高校 部活動発表を 通した交流	令和6年10月28日(月) 中学部対象 高島高校ダンス部・バトントワール部と の踊りを通した交流
赤塚公園 落ち葉拾い	令和6年12月20日(金)・23日(月) 本校生徒会と高島高校による落ち葉拾い

## ■ 卒業へ向けての取組 (小学部)

小学部6年 学年主任 秋元 奈緒

卒業式の練習が始まり、中学部の体験入学を終え、子供たちの口から「もうすぐ卒業だね」「4月からは中学生だね」という言葉が、クラスのあちらこちらから聞こえてくるようになりました。

6年生の子供たちは、教員が証書を受け取る子供役を演じている動画を見て卒業式当日のイメージをもち、椅子に座る時の良い姿勢や、大きな声での返事など、練習を積み重ねています。体育館の練習ではステージに一人ずつ上がり、演台の前で模擬証書をもらい、自分の席までゆっくりと戻る、という動きを繰り返し行っています。舞台上の子供たちの表情は緊張感いっぱいです。細かい指導にも真剣に向き合い、素敵な姿をお父さんお母さんに見せたいという気持ちが、練習の様子からもしっかりと伝わってきます。

3月5日には「6年生を送る会」が予定されています。小学部で過ごしてきた日々を思い出し、好きになったこと、頑張ったこと、うれしかったこと、中学部で頑張りたいことなどを言葉にし、ダンスとともに発表をします。

入学してから6年の間に関わりをもった全ての方に感謝の気持ちを込めて、学校で過ごしてきた日々のうれしい、悔しい、楽しい、たくさんのキラキラした思い出とともに、限られた残り少ない小学部での生活を大切に過ごしてもらえたらと思っています。



## ■ 卒業へ向けての取組 (中学部)

中学部3年 学年主任 小山 玲子

中学部3年生は、卒業制作として今年度社会見学で行った「東京タワー」や修学旅行で訪れた山梨県の「富士山」、そして9年間または3年間過ごした校舎の貼り絵を作成しました。



見本の写真を見ながら色紙の貼り方を工夫して、模造紙1枚分の絵を各学級（合同学級もあります。）で完成させました。体育館棟3階のホールに飾られた作品を見ながら、「すごいね」「きれいだね」と感想を話し合っている生徒たちの表情は満足感でいっぱいでした。

3年間の中学校生活も残すところ登校日が15日となりました。2月から卒業式の練習が始まり、証書授与の仕方をリズムに乗せて覚えたり、大きな声で返事をする練習をしたり、全体練習だけでなく、日々、学級でも頑張っており取り組んでいます。現在の目標は「校長先生と目を合わせよう」です。生徒には、校長先生が誰に証書を渡しているのか分かるように、顔を上げて受け取ることを伝えています。練習日程は少ないですが、卒業式に有終の美を飾れるようこれからも練習に励みます。



